

「水曜サロン with 赤堀会長」第5期 第14回(通算74回)

学びを育む学習環境、学習支援を考えるラーニングcommons・ライティングセンターでの実践を通して

1. 内容

- 授業外の学習環境・学びの充実が求められる。
- 大学ではラーニングcommons(学生の自主的な学びや学び合いの場)の整備が進んできた。
- ラーニングcommonsでは学習者の支援が行われ、日本の大学ではライティングのサポートが増えている。
- 支援内容は、博士課程学生等によるチュータリング(個別相談)、ワンポイント講座、一般の授業への出張講座、eラーニング・テキスト等の教材提供。
- 個別相談では添削はせず、対話により書き手の書く力を育成する。
～「言いたいことはどういうことですか?」～
- レポートの評価・アドバイスにおける生成AIの活用～事前に読み込ませたルーブリックのチェックリストに基づくアドバイス～

2. 所感

岩崎先生からは、大学におけるラーニングcommons、ライティングセンターの事例を中心にお話をいただきましたが、大学で広がったアクティブ・ラーニングが「協働的な学び」として初等中等教育にも広がってきたように、今後の初等中等教育にもラーニングcommonsやライティングセンターが体系的に広がっていくのではないかと(広がっていけばよいな)と思えるお話でした。

ラーニングcommonsについては、関西大学としてはグループ学習の場として作ったが一人で来る学生も多いのが現状、とのことでした。パーティションで仕切られた個別学習の場が別にあっても、そこではなく、ラーニングcommonsの自由な雰囲気、リラックスしながら居心地の良い場所で学びたいという学生が多くいるとのこと。ご講演終了後のセッションで、赤堀会長から、不登校が増えており、子供たちが学校に背を向け始めている、もっとゆとりがあってもっと豊かな学びが必要で、学校にもゆとりの空間・時間が必要なのだろう、という示唆がありました。令和4年3月に文部科学省から「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について(最終報告)」が公表されており、その中でラーニングcommonsの有効性も語られていますが、まだ具体的な政策には反映されていないようです。不登校の児童・生徒を減らす意味でも具体化してほしいと感じました。

また、ライティングセンターに関しては、主にチュータリング(個別相談)についてご紹介いただきました。レポートや論文の書き方に悩む学生に対して、添削をしたり教えたりするのではなく、対話によって話を聞き、書きたいこと・言いたいことを学習者本人から引き出すことを重視されているとのことでした。チュータリングの時間はチューターよりも学生のほうが話す時間が長くなるそうです。

ライティングセンターでのこのような実践は、初等中等教育における「探究」はもちろんのこと、実践や研究が広がっている小学校での自由進度学習においても指導の重要な視点になると感じました。「教える」のではなく「引き出す」ための手法の開発や、担任1人では行き届かない体制の強化を学校や教育行政としてどのように行っていくのかが問われるように思います。

岩崎先生からは、試行中とのことでしたが、生成 AI を活用したレポートの評価・アドバイスの事例のご紹介がありました。事前にルーブリックを生成 AI に読み込ませておき、レポートに対して評価・アドバイスをアウトプットしてくれます。学校における生成 AI の活用の研究が進み、レポート・文章の評価・アドバイスが実用レベルで出せるようになると、担任 1 人という指導体制においても学び方が一気に変わっていくのではないかという期待をもつことができました。

岩崎先生、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。